



5ff8246e76ef8

医療機関名 : PMCクリニック
受診日 : 2021/4/1
受診者名 : サンプル タロウ
カルテID : 123456789
備考欄① :
備考欄② :

アルツハイマー型認知症リスク検査報告書

Prodrome-AD

プロドロームエーディー

Prodrome-ADはアルツハイマー型認知症のリスクを評価する検査です。

認知機能の低下と関連性が確認されている“プラズマローゲン”の血中濃度を測定し、
アルツハイマー型認知症のリスクを3段階で判定いたします。



カルテID

123456789

氏名

サンプル タロウ

受診日

2021/4/1

性別

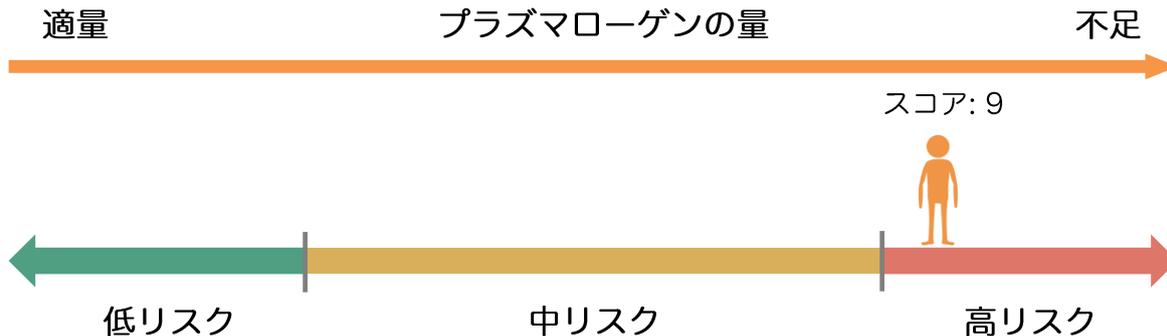
男性

年齢

60

Prodrome-AD 判定結果

Prodrome-ADの結果、プラズマローゲンの値は大幅に不足しており、**高リスク**と判定されました



総合評価コメント

プラズマローゲンは認知機能の脳の機能を健全に保つために必要不可欠な成分です。今回の検査結果ではプラズマローゲンの値が低下しており、アルツハイマー型認知症のリスクが非常に高い状態であると判定されました。必要に応じて専門医の受診や精密検査の受診をご検討下さい。

検査受診後について

低リスク

スコア: 86-100

リスク因子 (P3参照) を避けて、健康的な生活習慣をこころがけましょう。また、リスク管理のため本検査の継続的な受診をおすすめします。 ※1~2年に1度程度

中リスク

スコア: 16-85

喫煙習慣や肥満といったリスク因子 (P3参照) をお持ちの方は、生活習慣を見直し健康的な生活習慣をこころがけましょう。また、リスク管理のため問診による検査や本検査の定期的な受診をおすすめします。 ※1年に1度程度

高リスク

スコア: 0-15

医療機関とご相談の上、専門医の受診をご検討下さい。 ※必要に応じて精密検査(右ページ参照)の実施をおすすめします。

※あくまでも一例です。必要に応じて専門医の受診や精密検査の受診をおすすめします。

アルツハイマー型認知症のリスク要因

アルツハイマー型認知症は、様々なリスク因子が関与しています。予防の第一歩としてリスク要因を把握し、規則正しい生活習慣をこころがけましょう。

アルコール・喫煙



認知症の高齢者の29%は大量飲酒が原因の認知症と考えられたという調査結果があります。

ストレス・社会的孤立



孤独感を抱いている場合、脳内での老廃物の蓄積が進む可能性があり、アルツハイマー型認知症の発症リスクが高まります。

運動不足・肥満



研究開始時に肥満であった人は標準体重の人に比べて、認知症発症リスクが31%高いことが明らかになったという研究があります。

糖尿病



久山町研究によると糖尿病患者はアルツハイマー型認知症の発症率が高いという報告があります。

参考：国立長寿医療研究センターによる研究より抜粋

プラズマローゲンの量を改善するために・・・

プラズマローゲンは、体内では抗酸化作用の役割を果たしており、酸化ストレスによって引き起こされるさまざまな病気などから私たちの身を守っていると考えられています。

ホタテ/ホヤなどの貝類、鶏むね肉に多く含まれており、効率的に摂取するためにはサプリメントも有効です。

ホタテ/ホヤ



DHA（ドコサヘキサエン酸）やEPA（エイコサペンタエン酸）といった ω -3系長鎖多価不飽和脂肪酸が高含有であることと、ヒトの脳組織に多く存在するプラズマローゲンの型が多いといわれています。

鶏むね肉



鶏由来プラズマローゲンはオレイン酸という抗酸化力の優れた脂肪酸を多く含有しています。鶏由来のプラズマローゲンは、脳の神経細胞を保護する有効な素材であると考えられています。

サプリメント



日々の食生活を改善することが最も重要ですが、サプリメントを活用することで効率的にプラズマローゲンを摂取することが可能です。

◆ Prodrome-ADについて

検査概要

本検査では6種類のプラズマローゲン血中濃度を測定しています。プラズマローゲンは、脳の機能を健全にするために必要不可欠な成分です。プラズマローゲンが十分に存在していれば認知機能低下のリスクは低くなりますが、プラズマローゲンが減少すると認知機能が低下すると考えられています。

プラズマローゲンは認知症発症の前段階から減少すると考えられており、プラズマローゲンの量を定期的に測定することで認知症の予防につながる事が期待されます。定期的な検査の受診に加えて、日々の生活習慣を改善し、予防に努めましょう。

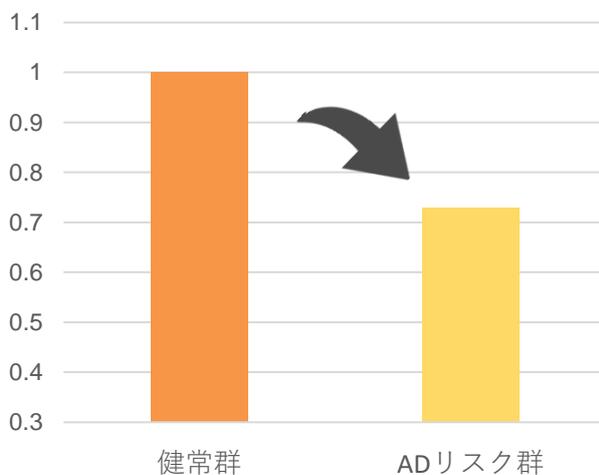
結果判定

プラズマローゲンの量が非常に少ない場合は高リスク、やや少ない場合は中リスク、十分に存在する場合は低リスクと判定します。高リスクの場合は低リスクと比べて5倍、中リスクの場合は低リスクと比べ2倍の発症リスクがあることが報告されています。

受診後の対応

生活習慣を見直してリスクの低減に努めるとともに、定期的な検査の受診をおすすめします。日々の食生活からプラズマローゲンを積極的に摂ることを意識しましょう。

◆ プラズマローゲンと認知機能について



日本人においてアルツハイマー型認知症の可能性の高い80名の被験者群と認知障害のない健常被験者群80名を比較したところ、アルツハイマー型認知症の可能性の高い群で優位にプラズマローゲンの量が減少していることが明らかになっています。プラズマローゲンの積極的に摂取することで認知機能の低下を予防しましょう。

出典：Dayan B. Goodenowe, et al [Peripheral ethanolamine plasmalogen deficiency: a logical causative factor in Alzheimer's disease and dementia]